

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

“平成31年 仕事始め式”

《新年のご挨拶》

P 2～3. 会長、副会長、事務局長のご挨拶

～高齢者福祉事業～

P 3. 養護老人ホーム 仙台長生園
特定施設 仙台長生園

P 4～8. 仙台楽生園ユニットケア施設群
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、葉山地域包括支援センター、ケアハウス創快館、仙台楽生園短期入所事業所、楽園デイサービスセンターいこい・なごみ、葉山訪問看護センター、葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 8～10. 沖野老人福祉センター、沖野デイサービスセンター、沖野居宅介護支援センター

～児童福祉事業～

P 10. 仙台保育園

P 10～11. 柏木保育園

P 11. 富沢わかば保育園

P 12. 中山保育園

P 12. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P 12～13. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

～教育事業～

P 13. 仙台理容美容専門学校

《 平成31年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

会 長 菅田 賢治

みなさん、良い年を迎えられましたか。平成もあと4か月となりましたが、本法人は創立91年という年となります。古いのれんではありますが、逆に常に新しいことに挑戦しなければいけない宿命が、法人にはあると思います。社会福祉法改正後、法人改革も3年目を迎えることとなります。今年もみなさんの協力と理解の上で、本法人の改革と、何より働きやすい職場の環境整備に尽力したいと考えます。どうか、みなさんの力を御貸し頂き、事業推進に努めてまいりますので、よろしく願い申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

副会長（業務執行理事） 佐々木 薫

謹賀新年、おめでとうございます。また、本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、法人の90周年を迎え、福祉の歴史を改めて考える機会となりました。平成の時代は、介護保険制度の創設と改正・見直しの連続でした。介護予防の重視、施設給付の見直し、地域密着サービスの創設、地域支援事業の充実、自立支援・重度化予防、共生型サービスの位置づけ、医療介護院の創設などの改正が行われました。また、法人関係では社会福祉法の改正があり、児童関係では認定こども園の創設などもありました。

2018年9月時点で65歳以上の人口は3557万人になり、2042年の3935万人でピークを迎え、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。2040年の総人口は約1億2600万人から約1億1千万人に減少し、労働力人口も現在の約6720万人から1260万人減って約5460万人になります。中学・高校・大学生などを除けば、実際は一人の高齢者を一人で支える時代が、もうそこまで迫っており、超・超少子高齢化時代に猪突猛進しているのが現状です。医療・障害・介護などの公的な支援だけでは、これからの社会を維持するのが困難になってきています。

このような状況の中、地域全体で支える包括的な支援・サービスの提供体制いわゆる「地域包括ケアシステム」の構築が喫緊の課題となっています。社会の支え手・担い手不足が深刻ですので、昨年、政府は「人生100年時代構想会議」の中で、全ての人が何歳になっても元気に活躍し続けられる「人づくり革命基本構想」を取りまとめ、さらには外国人を活用するため、「出入国管理及び難民認定法」を改正しています。

私自身も、昨年、厚生労働大臣が立ち上げた「介護現場革新会議」の委員や、「技能実習制度への介護職種の追加に向けた準備会」、「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン等作成・検証部会」、「文書量削減調査研究事業検討会議」等のメンバーとして、労働人口の急激な減少の中で、サービスの質を落とさず介護ニーズの増大に対応できるように、生産性の向上や業務の効率化、職員の負担軽減について協議しています。

具体的には、シニア層の登用やボランティアの確保、外国人の受け入れ、職場環境の改善、負のイメージの払拭、ロボットやICTの活用、介護保険帳票等の削減などについて有効な方法を検討し、国の施策に反映できるようにしたいと考えています。

当法人においても、10年後の100周年に向けて、社会情勢に歩調を合わせた効果的な取り組みが行えるように、全ての職員が活躍できる体制を整えていきたいと思っています。

事務局長 小野寺 信也

新年あけましておめでとうございます。平成から新しい元号になる今年は、創立100周年に向けてのスタートの年と捉えています。昭和の話になりますが、私が入職当初、戦災復興記念館で新年の仕事始め式が行われており、理美容学校の先生方が着物を着て出席し、施設長はじめ職員は酒を飲んで歌を歌っていた時代でした。その頃より、法人には旅行会（職員旅行）があり、職員が主体となり野球、テニスなどのクラブ活動の他、クリスマス忘年会を行っていました。仕事以外でも職員どうし仲が良くの交流を持っていた、のどかな時代でした。

今は、油断できない、窮屈な時代です。何気なく話した一言が命取りになりかねません。事業協会に於いても、その世の流れの中仕事に取り組んでいます。私を育てた先輩方から「最近、社会事業協会らしさがなくなったのではないのか」と心配されそうです。社会事業協会の魅力は、職員、利用者とその家族を包み込む大らかな雰囲気と思いやりの気持ちだと感じています。

今年は、10年先を見据え法人の長期目標である法人のブランド化に向け計画を立て効率よく業務が行われるよう、社会事業協会全体の事業計画を基に各施設長からヒアリングで聞いた内容を計画に組み入れ、各施設の経営状況を数値化分析し理事会、評議員会等への事業報告に反映する仕組みを作ります。また、働き方改革を見据え、有給休暇の消化、残業時間の見直しを行い、職員が意欲的に働ける環境作りを行って行きます。

上記の内容を踏まえ、社会事業協会の歴史をしっかりと振り返り、他の法人、施設との差別化を図り、役職員が共通認識を持ち邁進して行けるよう支援して行きます。

養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園

園長 佐藤 文彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年は、法人創立90周年の記念の年となりましたが、仙台長生園もお陰様で創立80周年の節目の年を迎えることができました。仙台長生園のこの10年は、養護老人ホーム保護費負担金が一般財源化された影響で入所者が減少の一途となりました。全国976の養護老人ホームの入所率は全国平均87%にとどまっており、昨年、全国老施協は養護老人ホームの活用に関する意見書を厚生労働省に提出し、自治体による措置控えの解消を求めています。仙台長生園も入所者126名、入所率84%と定員割れの解消は困難な状況が続いております。経済的な困窮のみならず、孤立・虐待・触法関連等、複雑かつ多様な福祉ニーズを抱える高齢者は増加しており、養護老人ホームの役割を十分に果たせるよう、今後も行政等に積極的な活用を要望してまいりたいと思います。

特定施設については、一昨年の外部サービス利用型から一般型特定施設への事業転換により、介護・医療の体制を強化できたことに加えて、介護保険収入が大幅に伸び長生園拠点の収支は安定し、施設整備等の資金として平成29・30年度に4,000万円の積み立てができました。昨年夏、猛暑による高齢者等の死亡事故が相次ぎ、小中学校の教室へのエアコン設置も促進の動きがありますが、仙台長生園の全居室にエアコン設置ができるよう、更なる経営努力を重ねていきたいと思っております。そして何より、利用者に喜んでいただける施設になるために求められるのは支援の質です。養護老人ホーム利用者には自立した生活を継続できる支援を、そして、特定施設利用者には看取りまで安心できる支援の質の向上に努めたいと思っております。

法人創立100周年、仙台長生園創立90周年に向けて、更なる前進の10年となるよう職員一同努めてまいりますので、今年も、ご指導ご支援の程よろしくお願い致します。

《平成31年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負》

総括施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

仙台楽生園ユニットケア施設群は、都市型の地域密着大規模多機能の理念を実践すべく、介護保険10事業と地域交流プラザを運営し、相互に補完し合いながら安定的な運営を維持してまいりました。しかし、これらの多様な事業を推進していくには、質の高い安定的な職員の確保が必要となりますが、全国的な課題でもある人材不足は深刻です。当法人においても人材確保や人材育成、キャリアパス制度の確立などを最優先に考えていかなければなりません。

昨年は、介護職員を確保するための人件費等の増加もあって経営的には大変厳しいものがあり、仙台楽生園ユニットケア施設群の理念でもある地域貢献事業や総合福祉サービスの提供が難しくなっています。しかし、全職員が知恵を出し合い、全事業所が連携して経営効率を高め、サービスの質の向上を図って行くことが肝要です。

平成30年の介護報酬改定は僅かでしたが、それでも増額はありがたいもので、何とか一息つくことができました。これも各福祉団体が、厚労省や財務省などの関係省庁及び各大臣や国会議員等に働きかけた成果でもあります。今後も署名集めや陳情などのロビー活動が重要となりますので、必要時にはご協力のほどよろしくお願いいたします。

本年は、休止していた葉山デイサービスセンターに、葉山地域包括支援センターを移行し、新たに荒巻支え合いセンターを設置して、地域住民と協力しながら「地域包括ケアシステム」の構築を推進する予定です。また、経営の厳しいケアハウスの事業転換も行ってまいります。

これからも公益的な事業として社会から評価されるように、より一層、地域に還元できるよう福祉事業の推進と社会貢献に力を注いでまいりたいと考えています。

《各事業所 新年の抱負》

特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 佐々木 薫

当園は、昭和62年4月開設の従来型（多床室）施設と、平成17年12月に開所した6階建ての高齢者総合福祉施設の中核をなす、ユニット型（個室）施設の特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設）です。従来型はこの4月に32周年、ユニット型（個室）施設は、昨年12月1日をもちまして、おかげ様で13周年を迎えることが出来ました。

ここ数年来、本当に“介護職員の確保”に苦悩している現実が長く続いております。また、今年度は介護と医療の同時改定が実施され、介護報酬改定は0.54%と微増ですが引き上げられた結果となりましたが、人材確保に派遣職員を採用するなど、運営としては厳しい状況が続いています。

今まさに、外国人労働者についても議論がなされている状況にあります。政治の力による解決が重要です。課題も多々ありますが、ロボットやICTの活用など生産性の向上と、職員の確保やあらゆる人材の活用を併せ持った対策が必要です。全国を上げて“介護の世界”を守ること、利用者へのサービスの質を担保することが何より大切です。早く「本当の安心につながる社会保障」を現実のものに出来るよう、私たちも活動しなければなりません。

運営面では、要介護3以上の入所要件が原則あることで、中重度の要介護者を支える施設としての機能を果たしております。介護人材の不足から生じる現場職員への負担増と併せ、介護人材の“教育・育成”が重要な課題であることを改めて強く認識しています。

また、「地域包括ケアシステム」構築の観点から、地域住民と連携して地域貢献の役割を担って参ります。さらに、当法人・施設群の「理念」を念頭に健全な運営を模索し、多職種との

連携を図りながら、職員一人一人が「想造・実行・成長」することにより、質の高いサービス提供を実践して行きたいと考えております。最後に、安心・安全な“生活の場”として、選ばれる施設づくりを目指してまいります。

葉山地域交流プラザ

館長 佐々木 薫

昨年は、地域交流事業の年間延利用者数、約 19,800 人の内、喫茶レストラン「茶楽」は約 5,700 人、展望風呂「天空館」は約 5,700 人、理美容室「g g バーバー・美楽る」は約 1,500 人、葉山予防リハビリセンターは約 330 人、葉山の森おもちゃ図書館は約 670 人、地域交流プラザホール利用者は約 3,500 人、ボランティア活動センターは約 1,600 人、実習生の受け入れが約 150 人、その他の地域支援・地域交流事業が約 920 人、オレンジカフェは約 130 名の認知症の人や家族、関係者の皆様に参加をいただいております。

地域支援・地域交流事業については、自主活動グループのメンバー増員や、近隣の高校生との交流イベントを積極的に受け入れたこともあり、次第に認知され増加する傾向にあります。

6 月より体操教室を志摩接骨院へ委託し、葉山予防リハビリセンターの活動を強化しました。さらに、12 月にはボランティア活動センターを、一時的に荒巻支え合いセンターの仮事務所として、荒巻地区福祉向上委員会（ワンファミリー仙台）に提供しております。

各サービスをご利用いただいているお客様の定着化は確実に図られている反面、開設から 13 年が経過し固定客の高齢化も否めない現状となっており、今後は新規利用客の獲得が最大の課題となると考えています。

本年も継続的に安心してご利用いただくために、サービスの新たな展開を企画実施し、さらなる利用者数の増加と、地域支援・地域貢献に重点を置いた内容の充実に努めてまいります。

グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

H30 年のグループホーム楽庵は、毎年のように課題となっている人材確保の諸問題により、今までにないほど困窮した 1 年であったと感じています。年間 1・2 名の退職者の補充をなすことができず、1 名の常勤人員を数名の非常勤人員でカバーする事もあり、一時は職員の約半数が派遣職員という状況となりました。しかしながら、長年培ってきた人材育成のシステムが壊れることなく継承され、混沌とした中であっても、ご利用者様とゆっくりと進められている日常生活の日々に、「楽庵らしさ」が形成されていくことを実感することができました。

また、そういった状況の中にも、偶然にも外国人材雇用の経験などを積むことができ、今後を見据えた学びを得ることができたことも大きかったと思います。今後に差し迫る状況を受け止めながら、先進的な実践への移行が果たせることもあろうかと思っております。

このような中でも、ご家族様からの変わらぬ熱い理解と信頼を得て、たくさんのご協力により、常に変わらぬ生活や行事を実施することができました。深い感謝とともに、今年も質の高いケアを維持し、選ばれ続けるような存在として努めてまいりたいと思います。

関係各所や地域の皆様方から、ホームを通して、温かく施設群全体を見守って頂いていると感じられる事も多くなりました。今年は職員ひとりひとりが、楽庵の職員としての誇りを持ち専門性を持った先導者として、何らかの活動に貢献・発信ができるように進めてまいりたいと考えています。また、地域へのホームの果たすべき役割を十分に理解し、近い将来を見据えて、各方面からの協力を賜りながら、地域活動の幅を広げてまいりたいと思います。

「ひとの想いをつなぐ場所」として、今年もさらに多方面より多くの信頼を得られるよう、職員一丸となって懸命に尽力してまいります。

葉山地域包括支援センター

所 長 佐々木 薫

仙台市では、平成 30 年度より新たな「介護保険事業計画」が始まりました。仙台市の基本構想に掲げる「支えあう健やかな共生の都」を実現するために、「高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らす事が出来る社会の実現」をめざし、活動してまいります。

具体的には、①健康で生きがいを感じながら活躍し続けられるために、介護予防・健康づくりに積極的に取り組めるよう推進していきます。②住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るために、高齢者の尊厳保持に向けた虐待防止や成年後見制度などの権利擁護の取り組みを進めます。また医療や介護などをはじめとする様々な専門職や関係機関などの連携を図っていきます。③認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るよう、本人や家族目線での支援の充実に取り組むとともに、地域における認知症に対する理解を広め、認知症や家族を支える体制づくりを進めます。

また「地域包括ケアシステムの構築」を目指し、荒巻地区まちづくり委員会・荒巻地区福祉向上委員会の一員として活動してまいります。

ケアハウス創快館

施設長 小船 正明

ケアハウス創快館は、平成 17 年 12 月 1 日に創立 13 周年を無事に迎えることが出来ました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。

さて、この 1 年間を振り返りますと、入居定員 10 名の創快館の入居者様の受け入れ体制に苦慮したものの、今生活している入居者様が元気に新年をお迎えしてくれたことに感謝するばかりであります。新年度もこれまでと同様に、「和（輪）の構築」として実践している“介護予防体操”を継続することで健康面でもサポートできるように努めていきたいと思っております。

また今年度は、職員が増員されたことにより、これまで以上に職員間の連携が図られ、入居者個々へのサービスの充実と併せ、委員会等の目的（計画）、実行、評価の一連の取り組みに対しても成果がありました。今後は更に現状のサービスと向き合い、職員が知識・技術の向上と併せ個別対応出来るよう努力し安心・安全な生活環境を構築できるよう取り組んで参りたいと思っております。

運営状況においては、創快館の収支については例年厳しい状況が継続しております。特にサ高住や有料老人ホーム等が隣接するなか、これまでより入居希望者も減少しております。また人材確保も厳しい状況が続き、今年も同様の課題が予測されるため、法人と相談しながら運営体制を進めて参りたいと思っております。これからも基本理念である「創—自ら創造する」・「快—共に心地よい」・「館—住まいと生活」を職員が一丸となって提供出来るよう頑張っていきたいと思っております。

葉山訪問看護センター

所 長 小船 正明

街に安心の笑顔を咲かせたい！ ～「こころ」「きずな」「くらし」～ を“理念”に掲げ、平成 17 年 12 月 1 日に開所してから、おかげ様で 13 周年を迎えることが出来ました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。この 1 年を振り返りますと、3 名の職

員が笑顔をもって訪問看護の基本である、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく生活を送れるように、医療関係機関や地域包括、居宅介護支援事業所等との連携をしっかりと図りながら、サービスを実践して参りました。

経営状況では、制度改正も含め大きな病院の後ろ盾もないことから今年度も事業運営としては苦戦を致しましたが、利用者のニーズに対しては、しっかりと適正なサービスができたと感じています。

今後の「地域包括ケアシステム」の実現に向け、「医療と介護の連携」や「認知症高齢者等の日常的な生活支援」の重要性を認識し医学的な観点、身体のアセスメント、そして生活者としてその人が持っている能力、暮らしを支えていくことが超高齢社会に求められる看護師の大きな役割となります。これからも求められている地域医療への責務を果たしていけるよう取組んでいきたいと思っております。

楽園デイサービスセンターいこい・なごみ

施設長 天野 博美

昨年は葉山デイサービスセンター休止のため、29年度末から30年度初めにかけて、登録数の増加がありました。しかし、要介護状態の悪化から在宅での生活が困難になり、施設に入所されるご利用者様も多くいらしたことから、経営状態は厳しい一年だったと思います。

そのような状況ではありましたが、日々の活動は通所される利用者様が自宅での生活を維持・継続できるように取り組んで参りました。季節ごとの行事に加え、昨年は初めての取り組みとして、ご家族様にも参加し楽しんでいただけるような行事を企画し実施しています。

近隣の通所介護事業所との差別化を図り、選ばれる事業所となるために、認知症高齢者の脳機能の維持、改善、認知症予防に繋がるよう、くもん学習療法や機能訓練の充実に力を入れて取り組んでいます。今後も更なる向上を目指すと共に、医療的ニーズや個別ニーズにきめ細やかに応えられるよう努力してゆきます。

また、昨年は地域に向けた社会貢献活動の充実も目標に掲げておりました。前年度から続けている児童公園の清掃活動は、少人数の参加ではありますが定着してきているため、今後も継続してゆきたいと考えております。また、介護・福祉を担う後継者育成の観点から、体験学習や実習生等の受け入れだけでなく、今年度新しい取り組みとして、近隣の小中学校に出向いてキッズサポーター養成講座を開始しました。一年で終わることのないよう、今後は内容の充実と、継続を目標に実施してゆきたいと思っております。更に、こちらから出向くばかりではなく、今後は小中学校の子ども達との交流活動が活発になることを目指しております。

今年もご利用者様、ご家族様が、安心して楽園デイサービスセンターを利用していただけるように取り組み、また地域に向けて、地域密着型通所介護事業所としての役割を果たせるように、今後も近隣の方々、関係機関、小中学校などと連携を深め、地域に根差した事業所となれるよう努力してまいります。

葉山ケアプランセンター

所長 天野 博美

葉山ケアプランセンターは『信頼と安心』を理念に掲げ、当センターを利用していただくご利用者様・ご家族様に安心して在宅生活を継続していただけるように支援してまいりました。ケアプランセンターは高齢者部門において、新規利用者の獲得窓口としての役割を担っており、地域包括支援センターと並んで地域包括ケアシステムのコーディネーター役を期待されている要の事業所でもあります。

我々ケアプランセンターも開所から13年が経過し、地域に根差した事業所として活

動を継続しておりますが、ご利用者様・ご家族様との信頼関係を更に深めてゆく為に、年に一度アンケート調査を実施しております。昨年も実施し結果が出ておりますが、その評価は概ね良好の評価を頂いたと思っております。但し、満足されている方だけではないこともアンケート調査から読み取れました。良いこともそうでないことも、センターの次年度の目標の中に組み入れ、事業所として更に成長できるように日々取り組んでゆきたいと考えております。

介護支援専門員の役割は、地域で生活されるご利用者様が、長年培ってきた生活を継続させ、住み慣れた地域の中で安心して在宅での生活を継続できるように支援してゆく事です。いつでも地域の皆様に気軽に相談いただけるよう、又皆様から身近にいるケアマネージャーと思って頂けるよう、在宅介護の相談支援機関として、その役割を果たしていきたいと考えています。

葉山ヘルパーセンター（介護部門・障害部門）

所 長 天野 博美

葉山ヘルパーセンターは、皆様のお力添えで、開所から13年が経過しました。地域に生活される利用者様の、途切れることのない生活をお手伝いさせて頂いております。訪問介護事業所に関しては平成30年度の法改正で身体介護はプラス改定、生活援助はマイナス改定となり、今後の業務内容の精査が求められております。

また、前年度から懸案事項となっております『総合事業』について、平成30年度に入り継続して検討を繰り返し、8月から事業を開始することができました。総合事業の開始時期が遅れたことにより、利用者数の激減があったため、利用者数の急激な回復は困難な状況ではありますが、登録ヘルパーの状況も鑑み、少しずつ利用者数が増えている状況です。

厳しい状況ではありますが、我がヘルパーセンターでは人材育成にも力を注いでおり、毎月勉強会を実施しております。それぞれが単独でケアを提供しなければならない在宅支援の現場では、不安に思うことも多くあると思います。月一度勉強会を実施することで知識の習得だけではなく、職員同士のコミュニケーションを深めることにも繋がっているのではないかと思いますので、今後も継続してゆきたいと思っております。

障がい部門に関しては、利用のニーズも増えてきており、社会的にも期待されている分野だと思っております。常勤の男性職員を1名迎え、利用者様のニーズに応えられるよう状態は整いつつあります。登録ヘルパーとの調整を行いながら、柔軟に対応できるように取り組んでいます。

高齢者も障がいを持つ方も、住み慣れた地域の中で生活が継続できるように支援できるのがヘルパーセンターです。また、身近にいるヘルパーが在宅部門のつなぎ役となることも間違いありません。今後も更に在宅部門の中で活躍できるように研鑽を重ねてゆきたいと思っております。

沖野老人福祉センター

館 長 植木 祐子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年4月に着任して、早くも9ヶ月が経過いたしました。振り返りますと様々なことが凝縮して、本当に密度の濃い時間だったと感じます。職場のスタッフはもちろん、毎日笑顔で来館される利用者の皆様方や、町内会はじめ地域の関係機関等多くの方々に支えられ、大事なく

新年を迎えることができましたこと、改めて感謝申し上げます。

当センターは、平成3年に市民センターや児童館と隣接、デイサービスセンターを併設する形で開設いたしました。以来、若林区はもとより、市内各区より大勢の高齢者の皆様が集い、いきいきと、楽しく、交流・活動する場としてご利用いただいた他、複合施設という利点もあり、世代を超えて地域の皆様に親しまれてきました。

平成から新しい時代へと遷り変わる今年は、これまでに培ってきた地域との絆を大切にしながらも、当センターにとっても節目の年となりますよう、新たな取り組みにも意欲的に取り組んでまいりたいと存じます。手始めに、趣味の教室の垣根を超えたコラボレーションの機会を計画している他、高齢者に限らず子どもや若い世代も含め、地域の様々な福祉活動にも積極的に参画したいと考えております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

沖野デイサービスセンター

所 長 植木 祐子

昨年は、当センターにとって様々なことに果敢にチャレンジし続けた一年でした。

開設から28年目を迎え、利用者の皆様方のご要望に対して、よりきめ細やかにお応えできるよう、デイサービスのプログラムを大幅に見直し致しました。運動機能向上と口腔機能向上を大きな柱として、小グループでのストレッチや軽体操を取り入れ介護予防運動の充実を図った他、日本訪問歯科協会様より講師をお招きして口腔ケア講座を開催、センターとご自宅での毎日の口腔ケア充実につながるよう取り組みました。趣味活動やレクリエーションについても、より楽しく、いきいきとお過ごしいただけるよう、スタッフが利用者の皆様の嗜好や、おひとりおひとりの生活に寄り添うことを大切に、これに応えられるよう多様なメニューを提供してまいりました。

また、「衛生管理・設備管理委員会」、「リスクマネジメント・事故・苦情対策委員会」、「業務推進委員会」の3つの委員会も立ち上げ、各種マニュアルの整備や、日々のケア・サービスの更なる向上を目指して取り組み始めております。

併せて、昨年10月より介護保険サービス対応の記録ソフトと、連動するタブレットを導入、これまで手書きで行ってきたケア記録についても刷新致しました。利用者の皆様の活動の様子について随時連絡ノート等に取り込み、リアルタイムでご本人様やご家族様にお伝えすることが可能になった他、職員間の情報共有や記録の充実にも繋がるよう期待しています。

若林区沖野のエリア内には、数多くのデイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護事業所等がひしめき合っています。この中であって、昨年からのチャレンジがしっかりと実を結び、より多くの利用者の皆様、ご家族様から選ばれる施設となりますよう今年も引き続き取り組んでまいります。

沖野居宅介護支援センター

所 長 植木 祐子

昨年、当センターでは①ケアマネジメントの基本をしっかりと捉え、一連の流れを確実に実

行して関連書類等について整備していくこと、②適切なアセスメントのもとにサービスを総合的・効率的に提供していくこと、③沖野三施設はもとより、地域の関係機関、行政、地域包括等多機関・多職種との連携を強化し相談援助機関としての役割を果たしていくこと、④苦情に関する体制を整え、内容の把握や具体的な対応・相談等、適切かつ速やかに実行していくこと、⑤外部研修会等に積極的に参加し、介護支援専門員として研鑽を重ねていくこと、を重点目標に掲げ事業運営を行ってきました。

特に、地域連携としては、かねてより参画していた沖野圏域での「認知症ケアパス沖野版」「ほのぼの沖野見守りマップ」が完成し、ひとつの成果をみることができました。現在「みまもりマップ・ケアパス委員会」が発足し、高橋管理者が委員として継続して参加し、地域住民への認知症啓発活動に関っております。

また、三施設間での連携のひとつとして、タイムマネジメントに関する外部研修会に参加した管理者を講師として、老人福祉センター及びデイサービスセンター職員に向けた内部研修会を開催する等、具体的に取組むことができました。

介護支援専門員2名体制の事業所ではありますが、これからも多くの研修会や情報交換の場に参加する中で、保健・医療・福祉等多様な分野の方々と交流し信頼関係を築いていくこと、更に知見を広め、着実に実践力を高めていけるよう努めてまいります。

仙台保育園

園長 高野 誠

明けましておめでとうございます。いよいよ、元号が変わり消費税増税、そして、3歳以上児の幼児教育無償化と2018年4月に施行された保育指針に続き、今年は、大きな動きが保育業界にも迫ってきており、その大きな変化の対応に追われる事が十分に予想されます。しかしながら、保育園の主役は子どもです。その子どもが安心して質の高い保育の提供を受けられる環境を維持し、更に向上させて行かねばなりません。そのためには、職員が保育に専念出来る職場環境を作っていかなければなりません。それは、直接処遇職員ではない施設長の役割と言えるでしょう。そして、主任を中心に、常に学び合いながら向上をしていくためにも、どのように意識づけ、同じ方向を向かせ、自分が持つクラスや職務だけでなく組織という観点から保育園や保育を考えられるようにしていける職員集団を作っていく必要があります。その為にも、何が必要なのかをしっかりと考えて行かねばならないと思います。外部へ出る研修ももちろん大事ですが、足元である園内で子ども・保護者・地域と保育者がつながりながら学び合う事を最優先に考えていければと思っています。昨年と同様になりますが、仙台保育園は、休日保育や病児・病後児保育を行っているからこそ、お互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にする保育が必要なのです。

また、処遇改善Ⅱで示されている副主任と中堅どころのリーダー格が、その、職務の責任を果たすべき意識をしっかりと持ってもらえるよう、それがチームとして保育の向上につながっていくように、それぞれの職務内容を精査していく事も必要かと思われます。

制度等の変化に躍らせられずに、常に基本に立ち返る、そんな年にしていきたいものです。どうぞ、今年もよろしく願いいたします。

柏木保育園

園長 高橋 すい子

明けましておめでとうございます。

昨年4月から保育園長として着任いたしました。保育園では子ども達の活気ある笑顔・柔らかな声・躍動感・生命力に満ち溢れる姿に接することが出来、無垢で純真な姿を前に心が洗われる毎日です。しかしながら子ども達が健やかな成長を遂げるための支援の重責を考えますと心が引き締まります。

子どもの笑顔は何人の人々を癒す力を持っているのでしょうか。また子どもの哀しい姿を思う時何人の大人が心痛むのでしょうか。目の前にいる園児たちの様々な表情や行動を前にする時これからの長い人生を生き抜いていく力を…この幼児期にこそ身に着けて欲しいと切に願っております。その為には関わる専門集団として保育士ひとり一人の専門性やきめ細やかな保育スキルを兼ね備えなければなりません。また、関わる全ての職員の間性をも問われる事とおもわれます。研修研鑽、内部研修、更に自己研鑽も大切で有り変容していく時代や環境に適切に目を向け柔軟に応えられる様、成長できる保育士が求められますので“まなび”を中心に据えてやっていきたいと考えております。また、地震や風水害が日本各地を襲いましたが地球規模の気候変動である為“明日は我が身”と言う危機感を自覚することも必要かと思われます。自助・共助・公助を念頭に持ちつつも地域との関係性を維持しつつ子どもの安全を確保して行けるよう様にして行きます。幼児で有っても自分の身を守る事、危機を察知したら逃げる事等年齢に合わせた対応の仕方を学んで貰えるようにしていきます。

平成の時代から新年号へと移行する新たな時代の幕開けが到来いたしますが子どもへの普遍的な愛情をベースとした子育ての拠点と成れるよう全職員が力を合わせ取り組んで参る所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

富沢わかば保育園

園長 庄子 美智子

昨年の年末は雪がちらつき寒い年の瀬となりましたが、年始は比較的暖かく陽も射し穏やかな年明けとなりました。保育園には久々に会った友達と顔を合わせて、年始の挨拶をするにぎやかな声が響いています。

昨年は、平成最後の年となりましたが、非常に自然災害の多い年で、大阪北部地震、西日本豪雨災害、北海道中部地震、8月の台風被害と途絶えることなく続きました。被害に合われた方は今も避難生活をされていることと思います。これだけの災害は、他人事ではなく自分たちの身にいつ起きてもおかしくないという意識と備えをしっかりと持って日々過ごしていかなければと思われます。

今年は年号が新しくなります。どんな新しい時代になるのでしょうか？情報が溢れる中、AI知能が人に代わって仕事をする時代が確実に来るでしょう。何が残るのでしょうか？時代が変わっても変わらないものは子ども達が育っていく過程ではないかと思われます。子どもが育つ土台は、一番には親子の豊かな愛着関係や絆だと思われます。そして、子どもを取り巻く地域との関係も変わってはならないものではないのでしょうか。保育園の存在もその中で保護者と共に子ども達の健やかな育ちを見守り、働く保護者の方を支援していくという役割は変わらないものと考えます。子ども達が、毎日、保育園に来ることが楽しいと思えるような保育、一日一日を子ども達が生き生きと過ごし、思いやりのある子ども達に育ちますように保育の質の向上を追求していきます。

富沢の地域に保育園を開園し、今年で28年目を迎えます。まわりには保育園がたくさん増えましたが、今まで以上に地域に開かれた保育園としての役割を果たせるように保護者の方と共に今年もより良い保育園作りを行っていきます。ご協力よろしく宜しくお願い申し上げます。

新しい年を迎え、新たな気持ちで気持ちを引き締め保育に当たりたいと思われます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

中山保育園

園長 櫻間 美智子

いよいよ平成31年、平成という時代最後の年の幕開けです。と言っても新しい元号は5月1日からという事ですので 残る平成時間は あと4か月余り。皆様、新年どの様な思いで迎えられた事でしょうか？ 当たり前といえば当たり前ですが5月1日以降に生まれる子ども達の生年月日には新しい元号がつくことになります。 来たるべき次代が明るく希望に満ちた時代でありますようにと願わずにはいられない年頭です。

さて、休み明けの子ども達は皆、表情も生き生きと休み疲れを感じさせずに“お出掛けした事” “お年玉の事”等々 思い出話に余念がなく、又、体調を崩したなどという話はほとんど聞かれず、楽しい良いお休みだったのだなと感じさせてくれています。そんな中、大人社会では本年10月から消費税が10%になるのに伴い、幼児教育の無償化という話がささやかれています。まだまだはっきりしない部分が多々あり、これからどの様に推移していくのか保育業界としては見守っている状況です。 たとえ時代や社会状況がどう変わろうとも『人を育てる。(健やかに育む、教育する)』という乳幼児教育の本質は変わることなく、翻って中山保育園でも中山保育所時代からの積み重ねを継承しながら昭和から平成へそして新たな時代へと子ども達を真ん中に保護者の皆様、地域の方々と手を携え、励んでいきたいと思っております。 本年もどうぞ、よろしく願いいたします。

仙台つばさ荘

施設長 菅田 賢治

平成28年に児童福祉法が改正され、その理念が大きく変化いたしました。それは、家庭養育を最優先とし施設養育は、最終手段と位置づけられたのです。母子生活支援施設は、戦後一貫して家庭養育のなかで、養育される子どもと養育を行う母親への支援を進めてきました。現在、都道府県では社会的養育の推進計画の策定に動いています。宮城県の推進計画には、母子生活支援施設の活用についてふれてもらう必要があります。今年はその活動を強めてまいりたいと思います。また日々の支援事業推進に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

仙台むつみ荘

施設長 長田 伸一

新年、明けましておめでとうございます。

清々しく、身の引き締まる思いで抱負を述べさせていただきます。むつみ荘は昨年多くの利用者世帯の入れ替わりがありました。そんな中でも皆、大きな怪我や事故も無く健康で無事に一年を終了する事ができました。これも、職員全員の努力と関係者の皆様のご協力あつての結果であると感謝に堪えません。さて、むつみ荘にはまだ経験が少なく、未熟な職員が多数おります。しかしそれは可能性の大きさと捉え、ベテラン職員を中心に職員育成や施設の運営方針、処遇サービスの基本を随時確認して行きたいと思っております。又、昨年に引き続き次の6点をむつみ荘の目標に掲げたいと思っております。 1 母子生活支援施設業務の専門分野をもっともっと理解する事。 2 職種や職員間のコミュニケーションを更に円滑にする事。 3 各担当職員の枠(守備範囲)を超えて、互いにカバーする実力を養い、チームとしての支援を確立して行く事。 4 施設内でしか通用しない生活態度や行為等を分析、軌道修正し、自立に繋げる事。 5 支援を計画し実施する場合、中長期的な視野に立ち、点から線そして面に広がる様な支援を心掛ける事。 6 確固たる目標と責任感を持って利用者第一で日常業務に臨む事。 この6つを

基本方針として挙げ、母子生活支援施設のメリットと特色を最大限発揮できる施設の環境を整備する事を、私の最終的な目標とします。法人全体では、職員全員が事業所毎に独立採算性が基本である事を強く認識する事が重要です。法人経営者は各職員からの意見を真摯に聞き、経営責任と説明責任を持って各課題を早急に打開していく事が法人としての直近の最重点課題だと思えます。80年を超える歴史のある仙台市社会事業協会を、誇れる法人のまま後進に受け継いで行く事が我々の責務であると思っております。

仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

今年は、年号が平成から新しい年号に変わる年ではありますが、本校にとってもいろいろな面で節目の年でもあります。それはどういうことかと申しますと、まず一つに、昨年本校の理容科の学生が全国優勝（金賞）を果たした「全国理容美容学生技術大会（理美容甲子園）」が、全国11地区が持ち回りで担当となり、今年が開催地が東北地区（宮城県のセキスイハイムスーパーアリーナ）で11月19日（火）に開催されることとなりました。地元開催ということで、そのプレッシャーも感じながら、昨年以上に気合を入れて臨み、良い成績をあげることを目標にしたいと思います。

そして、二つ目は新たに通信課程に理容師修得者課程及び美容師修得者課程を設置することです。

この過程は、理容師・美容師の一方の資格取得者がもう一方の資格を取得したい場合、従来は同じ修業年限を履修しなければいけませんでした。平成30年からその半分の修業年限で、しかも筆記試験は技術理論の1教科と、実技試験を受験し合格することで取得できることになりました。まだまだその需要は少ないものの、多少でも希望者がいることや理容・美容の仕事の垣根が低くなっており、ユニセックス化していることなどを考え申請することとしました。

また、三つ目は高等教育段階の教育費負担軽減新制度が2020年4月スタート予定という文部科学省からの通知があり、低所得世帯の高等教育の無償化や授業料減免、給付型奨学金の支援対象者・支援額の大幅拡充など、貧困の連鎖を断ち切り格差の固定化を防ぐことや少子化対策に資する施策が示され、本校としてもその動向を見ながら対応していきたいと考えています。

18歳人口の減少により専門学校・短大・大学の学生獲得が激化する中、企業も人材確保に必死であり、これまで以上に入学生の獲得が厳しい状況です。学生大会の結果や理容・美容修得者課程の新設、教育費負担軽減制度など何れも学生募集に大きく関わってきますが、それ以外のところも見直しをしながら教職員一丸となって知恵を絞り、この危機を乗り越えていきたいと思えます。

今年もどうぞよろしくお願い致します。